

二神氏のふるさと豊田町を訪ねる

豊田種長追善供養祭に出席

二神氏が二神島で産声を挙げた時代は、明確ではありませんが二神島の安養寺に残る沙弥法善(二神吉種)が奉納した大般若經の奥書により、元徳2年(1330)と云うことになっています。二神氏が二神姓を名乗る前は豊田姓で長門国豊田、現在の山口県豊浦郡豊田町に住んでいました。従って、二神氏の故郷は豊田町であり、その豪族であった豊田氏が元々の先祖と云うことになります。

その豊田町一ノ瀬地区で、明治時代から5年毎に行われている「豊田種長追善供養祭」が、この4月15日に行われ、「二神系譜研究会」として招待を受け出席してきました。

供養祭に町長、教育長も出席 町内挙げて歓迎ムード

供養祭に出席するために、前夜松山観光港から小倉航路に乗り豊田町入りをした一行と、その朝新幹線でやってきた関西地域の一行、そして前泊で参加の関東地域の一行併せて17名が、4月15日現地で合流しました。密着取材班のカメラが動く中、あいにくの曇り空のもと、午前10時から豊田種長の供養碑の前で「追善供養祭」が始められました。宮司の祝詞ではじめられた供養祭は今年は神式で行われました。5年後は仏式でと云うように交互に行われます。

神事後、白石一ノ瀬区長より挨拶があり、続いて来賓の吉本豊田町長をはじめ、教育長・議会副議長それぞれ挨拶を行いました。



豊田種長の供養碑の前で行われた供養祭

田中鑛蔵氏(元豊田町教育長)による 「豊田氏の興亡について」の記念講演

神事・各界来賓の挨拶の後、記念講演に移り、元豊田町教育長で、郷土歴史家の田中鑛蔵氏による「豊田氏の興亡について」のテーマで約1時間にわたり講演がありました。同氏は「私は二神氏の事について勉強不足で、現在お話出来ませんが、本日はこの豊田町で一時代を築いた豊田氏のことについてご報告をしたいと思いません」との前置のあと講演に入りました。

講演内容は、1豊田氏の祖、2豊田氏の起り、3源平合戦と七代種弘、4元軍の来襲と十一代種貞、5国乱と十二代種長・十三代種藤、6種

藤居館を殿敷同山に移す、7豊田氏の家督争い、8豊田氏大内氏に服従する、9日輪寺と豊田氏の滅亡、以上の項目によって行われました。



記念講演を行う田中講師

二神氏が唯一豊田氏の系譜を継続

田中講師は二神氏に関係がある7項目で豊田氏の家督争いに触れ、「種世と種家の争いの結果種家が争いに敗れて豊田郷を去り、伊予国二神島に移り二神氏を称した。二神氏は、伊予水軍の河野通直に従い、官方として各地に転戦して功績があった。種家の後、種直の代に二神氏は風早郡小川村宅並城の城主となり、子孫連綿として現在に至っている」と述べました。

豊田郷の豊田氏はその後の弘治二年(1556)二十代豊田房種の自殺により、事実上豊田氏が滅亡したため、豊田氏の系譜は二神氏のみでしか継続していないことも報告されました。

一ノ瀬公会堂で交流会 全町民が参加

記念講演の後、場所を300メートル程離れた一ノ瀬公会堂に移して昼食交流会となり、ここでは一ノ瀬地区の全町民が参加。盛大な交流会となりました。

二神氏側は参加した17名の全員を二神英臣事務局長が紹介し熱烈な歓迎を受けました。そしてこの中で、昨年頂いた「館の椿」の御礼にと「みかんの苗木」が磯部前区長に手渡されました。また、9月の二神島交流会には豊田町からも数名の方が参加されることになりました。